

令和4年度 学校自己評価表

鳥取県立日野高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	これからの社会に向け、たくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。
---------------------------	--

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びの推進 ・規範意識と多様性の受容力の向上 ・地域貢献力の育成
-----------------	---

年度当初					最終評価(1月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な 学びの推 進	学びに向かう意 欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○12月末日現在、授業関連(授業放棄・授業さぼり)で指導改善カードを受けた生徒は8名、のべ16件(全て1年次生)であった(R2:2名)。 ○学校評価アンケートで、学習への取り組み姿勢に肯定的回答をした生徒が91.5%。学ぶ内容や進め方に満足していない生徒の割合が前年比14ポイント増。 ○日野高版の「ふるさとキャリア・パスポート」を作成し、進路用ファイルを用いたポートフォリオを蓄積した。 ○「課題研究」におけるルーブリック評価を継続的に実施し、自己有用感や客観的な視点を育成した。(「人の役に立っていると思う」2年次44.8%→3年次57.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ5人以下。 ○落ち着いて安心して授業に参加できると回答する生徒が90%以上。 ○学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が90%以上。 ○進路指導に肯定的な回答をする生徒が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」を毎月初めに確認し徹底する。 ○ICT機器を活用するなどして、生徒による授業評価を把握し、授業計画に反映する。 ○担任面談で、家庭学習調査の結果をもとに、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路ガイダンスや面談等、キャリアカウンセリングの充実を図る。 ○「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」においてルーブリック評価を取り入れつつ、生徒の自己有用感と客観的な視点の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が94%。一方で、学習内容の満足度について肯定的な回答をした生徒は79%にとどまっており、学習への意欲はあるものの、学習内容の理解については課題が多い。(1年次生はChromebookで評価アンケートを実施。) ○生徒への進路指導を早期に行うため、2年次から面接週間で担任教員に加えてキャリア形成部の教員も面談を実施した。 ○「人との出会いをおとして成長を感じている」とした生徒は前年度同率。(R3:78.7% → R4:78.6%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」について定期的に確認しつつ自学の意欲を喚起する。 ○年度の早い段階で生徒による授業評価を実施・分析を行い、生徒の学びの質が向上するよう授業改善を行う。 ○進路LHRやSHRなどで入試制度の周知やオープンキャンパスの案内など進路意識を高める場面を増やす。
	授業のICT化の推 進	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の質的改善に取り組んでいると答えた教員は、91.7%で、前年の88.9%よりも向上した。(前年比2.8ポイント増) ○公開授業週間では、7月にオンラインで授業研究会を、11月には各教科で公開授業を実施。 ○教育センターGIGAスクール推進室より講師を招き、ICT教職員研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の教員の授業を年2回以上参観し、振り返りシートでフィードバックする。 ○クロームブックやタブレット端末を効果的、かつ定期的に活用した授業を実施している教員が50%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協同学習重点授業科目を決定し、授業プランシートを活用した授業公開を実施する。 ○ICTの授業活用事例の職員研修を行い、授業改善を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○7月の協同学習授業研修会に併わせ、授業公開週間を実施。授業へのICT活用法について教員間で相互研修を行った。さらに、11月にも授業公開週間を実施した。 ○8月にICT活用の先進校から教員を招聘し、Chromebookの活用について教員校内研修を実施した。ICTを活用している教員は80%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業におけるICT活用に関する職員研修を行い、協同的な学びの実現につなげる。 ○多くの教員が、日常的にICT機器を利用し、より効果的で効率的な授業を進めていくことができるように、必要な環境整備を行う。
2 規範意識と 多様性の 受容力の 向上	人と関わる力の増 大	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒は46.1%(R3.12月現在)。 ○対人関係でストレスを持つ生徒や自己肯定感の低い生徒も多い(保健室入室者実人数79人、教育相談数41件)。 ○1年次生対象に自己理解・他者理解講演会、2年次生対象に性教育講演会を実施。(12月) ○1年次生対象に食育講演会、3年次生対象に食育映画鑑賞会、希望者対象に簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施。 ○問題行動事案での指導件数が3件。 ○学期ごとに目標設定と振り返り(アンケート、口頭発表)を行い、行事ごとに振り返りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒が50%を超えている。 ○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が85%以上。 ○朝食を全くとらない生徒が5%未満。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに目標設定と振り返りの時間を設け、自己の成長を客観視させる。 ○自己理解・他者理解講演会、性教育講演会を実施する。 ○食育講演会、食育映画鑑賞会を実施する。 ○地域貢献・連携活動をおとして、生徒自身に成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「人の役に立っていると思う」とした生徒は微減。(R3:46.1% → R4:45.2%) ○自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、性教育講演会(2年・12月)、性に関する指導LHR(全校・12月)、ストレスマネジメント授業(全校)を実施し、「相手の気持ちを大切にすることができている」とした生徒が増加。(R3:77.5% → R4:79.8%) ○朝食を全く摂らない生徒が7.7%。食育講演会(1年・9月)、食育映画鑑賞学習会(3年・12月)、希望者対象の簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施し、食への興味・関心を高める取組をした。 ○生徒指導事案はやや増加。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会や様々な地域交流活動等を実施するとともに、個別の支援に努める。 ○保健便り、講演会、講習会、保健室での個別指導などをおとして、食に関する啓発活動を継続する。 ○見逃さない生徒指導を行う。
	地域に貢献する 意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒が77.5%で、前年比14.3ポイント減。 ○「学びの成果発表会」において指導助言者から、「地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行することに充実している。」と高評価を得た。 ○「日野高ショップ」、「日野高校・小学生交流学習」、「Weスポーツ」等を通して地域連携・地域貢献を果たした。 ○生徒会執行部を中心に、学校祭の企画運営や「はるかのみまわり」の活動、学校評価アンケートによる現状把握への取り組み等、積極的に取り組む姿勢がみられた。 ○「ゴミ減量チャレンジ」を行い、学期末に表彰した。 ○「ゴミ出さないDay」を5月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が80%以上。 ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○生徒が主体的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献等の活動に取り組めるようになる。 ○前年の可燃ゴミの総量を超えないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」の授業において、話し合いや振り返りの時間を確保し、主体的対話的な深い学びを促進する。 ○生徒会執行部を中心に生徒自身が主体的に活動を行い、その活動の中から実現可能な地域貢献を行う。 ○「ゴミ出さないDay」等の減量意識啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」とした生徒は微減。(R3:77.5% → R4:76.2%) ○「学びの成果発表会」では、地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行することに充実していると高評価を得た。 ○生徒会執行部を中心に、「はるかのみまわり」や学校祭の企画運営、学校改善に積極的に取り組んでいる。 ○環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(各学期末)、ゴミ出さないDAY(6月)、ペットボトルキャップリサイクル活動(8月)などを通して環境意識を高める取組を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次の「産業社会と人間」から3年次の「日野探究Ⅱ」までの学習で、問題解決力を育成する。 ○新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、地域との連携を促進し地域貢献力を育成する。 ○環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、地域の清掃活動などの環境意識を高める活動を継続し、TEAS通信をおとして啓発活動を行う。
4 働き方改革 の推進	勤務時間管理及 び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○一人当たり月平均時間外業務時間が7.1時間であった(前年比26.8ポイント増)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務を前年比30%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を減らし、時間外業務の削減を図るとともに、組織的な業務運営を推進し、校務運営の効率化と業務の平準化を図る。 ○部活動計画を月毎に立案し、計画に即した部活動指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務の削減は前年度比△2.8%(1月末) ○部活動指導は、概ね計画どおりに実施した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○担任業務や分掌業務などの平準化やICT活用による効率化を図り、個々の業務負担を軽減し、時間外業務を削減する。(ex生徒面談で記録担当教員を設けて面談担当教員の業務負担を軽減する。)

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直

[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]